エーハイム ウェット&ドライフィルター2229を使った海水魚水槽のセット例

作例は、75cm水槽にエーハイム ウェット&ドライフィルター2229を装備した海水魚水槽です。海水魚愛好家憧れの名魚、「紅海の帝王」ことアラビアンエンジェルの大型個体が主役です。従来のエーハイム パワーフィルター・シリーズでは、海水魚飼育時には飼育水中に豊富な空気を吹き込むことができるディフューザーが不可欠でした。しかしウェット&ドライ機能を備えたエーハイム2229の場合は、磯のサラシ場が持つろ過のバイオメカニズムーすなわち豊富な酸素を飼育水中に含ませることにより、円滑なナイトロジェン・サイクル（ろ過循環）を実現するーが組み込まれているため、ディフューザーは必要ありません（装着できません）。もちろん、このようなバイオメカニズムは海水魚だけでなく、淡水性のアジアアロワナ、アフリカンシクリッド、ディスカス、中～大型肉食魚などの飼育時にも優れた効果を発揮します。エーハイム ウェット&ドライフィルター2229は、それら熱帯性淡水魚の飼育にも、効果的で最適なパワーフィルターということができます。

【使用ろ材】

1. サンゴ礫
2. エーハイムサブストラットプロ ラージ
3. エーハイムサブストラットプロ レギュラー

75cm水槽+エーハイム ウェット&ドライフィルター2229セット例【データ】

水槽サイズ:75×40×45cm
収容種:アラビアンエンジェル×1、キイロハギ×1、ハタタテダイ×1、カクレクマノミ×3
水温:26℃／**pH:**8.2／**給餌回数:**1日1回（昼）、**餌の種類:**フレーク状海水魚用餌料、冷凍ブラインシュリンプ、他
換水:月1回、40ℓ／**フィルター掃除:**3ケ月に1度。また、スポンジプレフィルターは4～6週間で交換。

ウェット&ドライには同梱のサブストラットプロ レギュラーをお薦めします!!

サブストラットプロ・ラージ

実物大写真

サブストラットプロ・ラージの直径は14～20mm
内容量 2ℓ 終売
内容量 1ℓ 終売

エーハイム サブストラットプロは、通水性に優れ、ろ過バクテリアの着生が良好な多孔質構造を備えた高性能ろ材で、ウェット&ドライフィルター2229に最適です。一般的な熱帯性淡水魚の飼育時には、同梱のサブストラットプロ レギュラーをご使用ください。ただし、弱アルカリ性の水質を好む海水魚やアフリカンシクリッドの飼育時には、いちばん上のろ材コンテナだけはサンゴ礫を入れてください。また、水草レイアウト水槽などの場合も、このいちばん上のろ材コンテナにサブストラットプロ ラージを使用してもよいでしょう。

エーハイムジャパンホームページ http://www.eheim.jp（機種別分解図、各種取扱説明書、総合カタログ、アクセサリー別の使用方法や分解図などご覧になれます）

エーハイム ジャパン株式会社

【修理・保証サービスなど製品に関するお問い合わせ】エーハイムサービスセンター（平日10:00～12:00、14:00～17:00 土・日・祝祭は休み）TEL:043-297-3901 FAX:043-297-3531 Eメールアドレス service.center@eheim.co.jp
住所：〒261-7112 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-6ワールドビジネスガーデン マリブイースト

「エーハイム総合カタログ」を送付いたします。ご希望の方は、サービスセンターあてに電話、ハガキ、E-メールでお申し込みください。

ウェット&ドライフィルター2229で海水魚を上手に飼うためのゴールデンルール12

※以下の「ゴールデンルール12」は、ウェット&ドライフィルター2229で海水魚を飼育されるかた向けのプラスアルファの情報です。
ビギナーのかたは小売店などでよくご相談されることをお薦めします。

1:使用するろ材についての注意

取り扱い説明書で指定しているろ材（サブストラットプロ　レギュラー）以外はウェット&ドライフィルター2229に使用しないでください。ただし、海水魚やアフリカンシクリッドなど、弱アルカリ性の水質を好む魚種を飼育する場合は、大粒のサンゴ礫を使用することは可能です。
また、サブストラットプロ ラージも使用できます。

2:酸素供給量について

クラシックシリーズやエコシリーズで海水魚を飼育する場合には、ろ過バクテリアの活動に不可欠な酸素を海水に豊富に溶け込ませるためのディフューザーの使用が不可欠ですが、ウェット&ドライフィルター2229の場合はディフューザーの接続そのものができません。しかし、ウェット&ドライ機能によってろ材が一定のサイクルで直接空気にさらされるため、クラシックシリーズやエコシリーズでディフューザーを使用しているとき以上の酸素が、ろ材に着生したろ過バクテリアに供給されます。

3:フィルターの定期的な清掃の重要性

ウェット&ドライフィルター2229が好調に作動している場合でも、3～4カ月に1度はインペラーやホース内部を洗浄してこびり付いた汚れを落とし、あわせてろ材も洗浄します。ただしろ材の洗浄は、ろ過バクテリアが死滅したり流失するのを防ぐため、少量の飼育水で軽くゆすぐ程度にしてください。なお、この作業で減ってしまった飼育水は足すようにします。
また、吸水ストレーナーに取り付けるスポンジプレフィルターは4～6週間で交換してください。

4:人工海水はあらかじめ溶かしてから水槽に入れる

水槽をセットする際は、人工海水は水槽の中で溶かすのではなく、あらかじめ溶かしてから水槽に入れるようにしましょう。人工海水はぬるま湯で溶かすと溶け残りもなくよく溶けてくれます。例えば25ℓ用人工海水の場合、最初の5～8ℓはぬるま湯を使ってよく溶かし、残りの20～17ℓは普通の水道水を入れて水温を整えるという裏技もあります。ただし、水温40℃以上のお湯で溶かすと人工海水が変質する心配があるので、必ずそれ以下の水温の温水で溶かすようにしてください。

5:人工海水は濃いよりもやや薄いほうがよい

水質にデリケートな無脊椎動物やイカ、タコを飼育する場合は、人工海水は絶対に厳密な適正量に溶かさなければなりません。しかし魚を中心に飼育する場合は、人工海水は濃いよりもやや薄いほうがよいようです。具体的には、25ℓ用人工海水を26ℓの水道水で溶かす程度、つまり、25ℓ用人工海水なら適正量よりも1ℓぐらい多めに水道水を入れればよいでしょう。ただし、薄めすぎるのは絶対に避けてください。

6:底砂のサイズに注意

ごく細かいサンゴ砂も市販されており、好みでこれを使用される人もいますが、ウェット&ドライフィルター2229が吸い込んで故障の原因となる心配があるため、水槽の底に敷くサンゴ砂は、ストレーナーを通過できない中粒程度のものをご使用ください。

7:魚の数は少ないほうがよい

パワーフィルターを使った海水魚水槽をセットした場合は、海水が安定するまでに最低で1週間、本調子になるまでに最低で1ヵ月ぐらいを見込んでください。ですから、水槽セット後1週間めにテストフィッシュを1～2尾入れて様子を見たうえで、このテストフィッシュが2週め、3週めと問題なく生きているようなら、4週めにその水槽で飼育可能な尾数の半分まで魚の数を増やし、その後は週に1～2尾ずつ増やすようにして、最終的には8週めぐらいまでに、その水槽で飼育可能な尾数の85～90%の数の魚を入れて終わりにします。ちなみに、魚を100%まで入れずに10～15%の余裕をもって少なめに入れるのは、安全マージンを得るためです。ウェット&ドライフィルター2229で海水魚を飼育する場合、60cm水槽なら全長5cmの魚が6尾、75cm水槽なら全長5cmの魚が8尾が限界なので、実際には60cn水槽で全長5cmの魚5尾、75cm水槽で全長5cmの魚7尾を目安にしましょう。飼育している魚の数が少なければ少ないほど、水質は安定するという点を理解しておいてください。

8:テストフィッシュについて

海水魚の場合、全般的に丈夫で飼いやすい魚種は縄張り意識が強く、闘争しやすい傾向が見られます。そのため、丈夫だという理由でテストのために先に水槽に入れたテストフィッシュが元気に生き続けて、後から入った温和な魚をいじめまくることもあります。この問題を解決するには、最初から温和な魚種をテストフィッシュにすればよいのです。温和な魚種にはややデリケートなものも多いので、飼いやすい魚種のように、丈夫すぎて逆にテストフィッシュの役割をはたしてくれないという心配もありません。具体的には、カクレクマノミ、デバスズメ、ミツボシクロスズメ、ハタタテハゼ、アケボノチョウチョウウオなどがテストフィッシュに適していますが、これらの魚種も、個体差やサイズの違いによって性格が異なることがあるので、後から入れたい魚種などもよく考え、アクアショップで相談したうえでテストフィッシュを決めることをお薦めします。

9:魚の選び方について

魚の選び方は、海水魚飼育が成功するか失敗するかの大きな要因のひとつです。眼がよく動き、餌をよく食べ、病気の兆候が見られず、元気によく泳ぎ回っており、鱗が切れたり欠けたりしていない個体を選びましょう。「選魚眼」にまだ自信のないかたは、信頼できるアクアショップでよく相談して海水魚を購入するようにしてください。

10:週に1回必ず水質検査を

アクアショップでは、簡単に水質が検査できる水質検査薬が市販されています。それらを使用して、週に1回、pHと亜硝酸を必ずチェックしてください。海水の場合、pH7.8以上、亜硝酸濃度は限りなく0に近いのが理想です。チェックの結果、pHが7.6以下だったり、亜硝酸濃度が0.25mg/ℓ以上だった場合は、換水をして理想の数値に戻すようにします。換水後3～4日ほどの間は毎日水質をチェックして、数値に大きな変動が生じていないかを調べてください。その結果、かなり急激な水質劣化の兆候が見られたら、それは長期間換水をしなかったせいで海水が古くなって生じる蓄積性の水質劣化ではなく、魚の入れすぎによるろ過能力オーバー、または、ろ材の汚れすぎによるろ過能力の低下だということになります。その場合は水槽の魚の数を減らすか、ろ材の汚れを海水でごく軽くすすぎ洗いして除去するなど、根本的な解決を図る必要があります。

11:給餌のコツ

給餌は1日に1回、魚が2～3分で食べ切る量を与えます。強い個体と弱い個体がいて餌が平等に食べられないような場合は、水槽の別々の場所で同時に給餌するなどの工夫をして、餌がまんべんなく行き渡るようにしてください。飼育している魚種によっては、1日2回給餌をしてもよいですが、その場合は、朝夕のようにできるだけ時間をあけて与えるようにします。なお、与える量は2～3分で食べ切る量です。また、週に1日は絶食の日を設けるのもよいでしょう。この日は、餌の汁が飼育水に溶け込んだり魚の排泄物が出ないので、ろ過バクテリアによるろ過が推進され、水質の向上が見込めます。それに、絶食した翌日は餌食いがよくなるうえ、消化器官を休ませることができるため、魚たちの健康にも好影響が望めます。ただし、空腹になると他の魚に食害をおよぼすような種を飼育している場合は、絶食によって同居している他の魚に被害を与える危険があるので薦められません。

12:換水について

海水魚の場合、ろ過装置が安定して働くようになると、淡水性の熱帯魚よりも換水の必要性が大幅に減少します。ろ過が完全に機能して飼育尾数も適正な水槽なら、1ヵ月に1回、全水量の1/4～1/5量の換水をすれば十分です。逆に、セットしてから数カ月も経つのに水質が安定せず、頻繁な換水が必要な水槽は、飼育尾数が多いにもかかわらずろ過装置の能力が低すぎるか、ろ過装置が正常に機能していないことが考えられるので、問題点を改善しなければなりません。